川名弘志氏の講演内容予測レポート (Manus)

「未来を拓く知財人財とは？ — 次世代を育てる戦略と視点」

1. はじめに

本レポートは、2025年5月28日に開催予定の「LexisNexis PatentSight+ Summit 2025」において、KDDI株式会社コーポレート統括本部プロフェッショナルで、一般社団法人知財・無形資産ガバナンス協会副理事長の川名弘志氏が行う講演「未来を拓く知財人財とは？ — 次世代を育てる戦略と視点」の内容を予測するものです。

川名氏の経歴、専門性、過去の講演内容、日本企業における知財人財育成の現状と課題、知財・無形資産ガバナンス協会の方針などを多角的に調査・分析し、講演で取り上げられる可能性の高いテーマや視点を体系的にまとめました。

2. 川名弘志氏のプロフィールと専門性

2.1 経歴と現職

- 1993年4月：KDDI株式会社入社
- 2000年10月：知的財産室配属
- 2006年2月：弁理士登録
- 2015年4月-2022年3月：知的財産室長
- 2021年6月-2022年12月：Soracom社外取締役
- 2022年4月-2024年3月：シニアエキスパート
- 2024年4月-現在：KDDI株式会社コーポレート統括本部プロフェッショナル（知的財産戦略担当）
- 2025年2月-現在：一般社団法人知財・無形資産ガバナンス協会副理事長

2.2 専門性と実績

川名氏は、KDDIにおいて20年以上にわたり知的財産分野に携わり、知的財産室長として7年間の経験を持ちます。弁理士としての専門的知識と実務経験を兼ね備え、通信業界における知財戦略の第一人者として知られています。

また、スタートアップ企業であるSoracomの社外取締役を務めた経験から、大企業だけでなくスタートアップにおける知財戦略にも精通しています。

近年は「これからの知財人財のスキルと育成」をテーマとした講演活動も行っており、知財人財育成に関する見識を深めています。

3. 日本企業における知財人財育成の現状と課題

3.1 知財人財を取り巻く環境変化

現在、日本企業の知財人財育成を取り巻く環境は大きく変化しています。内閣府知的財産戦略推進事務局の2024年4月の資料「高度知財人材の戦略的な育成・活用を巡る課題」によれば、以下のような課題が指摘されています：

1. 研究開発における人材育成・流動化の課題
2. イノベーション創出に貢献できる博士人材の活躍が不可欠
3. 日本の人口100万人当たりの博士人材数は、米英独韓と比較して3~4割程度に留まる
4. 博士人材と企業のマッチングの難しさ（採用しない理由として「マッチングがうまくいかなかった」と回答する企業が5割強）
5. コンテンツ開発や利活用における人材育成の課題
6. 世界的な変化に対応し、ビジネスモデルの変革や産業全体の構造改革を進める必要性
7. 新しいIPの創出、制作手法やプロセスの変革、新しいビジネスモデルの創出を牽引できる人材の育成
8. 知財活用を支える人材基盤強化の課題
9. イノベーションの社会実装を推進する担い手となる人材の裾野拡大
10. 多様な属性（性別、年齢、国籍、価値観等）を有する人材の多様性と包摂性の強化
11. スタートアップの事業化に向けた知財戦略構築を支援する人材の需要増加

3.2 政策動向

政府は「博士人材活躍プラン」（2024年3月26日、文部科学省）を策定し、2040年における人口100万人当たりの博士号取得者数を世界トップレベルに引き上げる（2020年度比約3倍）目標を掲げています。

また、産学連携によるジョブ型研究インターンシップの推進や、博士後期課程学生の経済的支援とキャリアパス整備の一体的実施など、具体的な施策が進められています。

4. 知財・無形資産ガバナンス協会の人財育成方針

川名氏が副理事長を務める知財・無形資産ガバナンス協会は、「知財・無形資産で、日本を、元気に」というビジョンを掲げています。同協会の人財育成に関する方針として、以下の点が挙げられます：

1. 知財・無形資産ガバナンス活動を社内でリードし、実践するための人財を強化・育成
2. 企業の価値創造に向けて、社内の経営者や関係部門、社外の投資家等のステークホルダーとの連携を深める
3. 知財・無形資産を創造し、投資・活用する人財を育成し、彼・彼女らの成果を公平に評価し、事業で貢献してもらう仕組みの構築

これらの方針は、川名氏の講演内容にも反映される可能性が高いと考えられます。

5. 講演内容の予測

以上の調査・分析に基づき、川名弘志氏の講演「未来を拓く知財人財とは？ 一次世代を育てる戦略と視点」で取り上げられると予測される内容を以下にまとめます。

5.1 知財人財を取り巻く環境変化と課題

5.1.1 デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速

川名氏は、AIやビッグデータなどのデジタル技術の急速な発展により、知財業務や知財戦略の在り方が根本的に変化している現状を解説すると予想されます。特に、KDDIという通信企業での経験から、デジタル技術が知財業務に与える影響と、それに対応できる人財育成の重要性を強調するでしょう。

5.1.2 グローバル競争の激化

日本企業が国際競争力を維持・強化するために必要な知財戦略と人財育成の重要性について言及すると考えられます。特に、日本の博士人材の活用が諸外国と比較して低水準にあることを指摘し、グローバル競争に勝ち抜くための人財戦略の必要性を訴えるでしょう。

5.1.3 スタートアップエコシステムの発展

「スタートアップ育成5か年計画」に対応した知財戦略構築支援人材の必要性について、Soracom社外取締役としての経験も踏まえて語ると予想されます。大企業とスタートアップの知財戦略の違いや、両者の連携における知財人財の役割についても触れるでしょう。

5.2 未来を拓く知財人財に求められる資質・能力

5.2.1 T字型人財の重要性

専門性（縦軸）と幅広い知見・視野（横軸）を兼ね備えた「T字型人財」の重要性を強調すると予想されます。知財の専門知識だけでなく、経営戦略、技術動向、市場環境など幅広い知見を持つことの重要性を説くでしょう。

5.2.2 ビジネス感覚と経営視点

知財を事業戦略・経営戦略と結びつけて考えられる能力の重要性について言及すると考えられます。知財部門が「コストセンター」から「バリュークリエーター」へと変革するために必要な人財像を提示するでしょう。

5.2.3 デジタルリテラシーとAI活用能力

最新技術を理解し、知財業務に活用できる能力の重要性を強調すると予想されます。特に、AIによる特許調査・分析、IPランドスケープなど、デジタル技術を活用した知財業務の高度化について具体例を交えて解説するでしょう。

5.2.4 多様性と包摂性の理解

異なる属性（性別、年齢、国籍、価値観等）を持つ人材の強みを活かす視点の重要性について言及すると考えられます。多様な背景を持つ人財が協働することで、イノベーションが促進される事例を紹介するでしょう。

5.2.5 オープンイノベーション推進力

社内外の知を結合し、新たな価値を創造する能力の重要性を強調すると予想されます。クローズド戦略とオープン戦略を適切に使い分け、外部との連携を通じて価値を創出できる人財の必要性を説くでしょう。

5.3 次世代知財人財育成のための戦略と視点

5.3.1 企業内育成プログラムの刷新

OJTと体系的な研修を組み合わせた実践的育成法について、KDDIでの経験を踏まえて具体的に解説すると予想されます。特に、デジタル時代に対応した新しい育成プログラムの事例を紹介するでしょう。

5.3.2 産学連携の強化

大学との連携によるジョブ型研究インターンシップの活用など、産学連携による人財育成の重要性について言及すると考えられます。博士人材の活用促進や、アカデミアと産業界の橋渡しとなる人財の育成についても触れるでしょう。

5.3.3 知財部門の役割変革

守りの知財から攻めの知財へ、事業創出に貢献する知財部門への転換の必要性を強調すると予想されます。知財部門が経営戦略の立案に積極的に関与し、事業価値の創出に貢献する事例を紹介するでしょう。

5.3.4 キャリアパスの多様化

知財専門職だけでなく、事業部門や経営層へのキャリアパス構築の重要性について言及すると考えられます。知財人財が様々な部門を経験することで、より広い視野と実践力を身につける重要性を説くでしょう。

5.3.5 評価・報酬制度の見直し

知財人財の貢献を適切に評価し、モチベーションを高める仕組みの重要性を強調すると予想されます。特に、短期的な成果だけでなく、中長期的な価値創出を評価する制度の必要性について触れるでしょう。

5.4 KDDIにおける知財人財育成の実践事例

川名氏は、自身がKDDIの知的財産室長時代に実施した組織・人財改革の具体例を紹介すると予想されます。特に、デジタル技術を活用した知財業務の効率化と高度化、多様な人財の活躍促進、スタートアップとの連携などの取り組みについて具体的に解説するでしょう。

5.5 知財・無形資産ガバナンス協会の取り組みと展望

副理事長として推進する知財人財育成の方向性や、産学官連携による知財人財エコシステム構築の展望について言及すると考えられます。特に、「知財・無形資産で、日本を、元気に」というビジョンの実現に向けた具体的な取り組みを紹介するでしょう。

6. 講演のキーメッセージ予測

川名氏の講演における主要なメッセージとして、以下の5点が予測されます：

1. **知財は企業価値創造の中核**：知財・無形資産が企業価値の大部分を占める時代において、知財人財は企業の持続的成長の鍵となる
2. **多様性と専門性の両立**：次世代の知財人財には、深い専門性と幅広い視野・多様性の両立が求められる
3. **デジタル技術の積極活用**：AIなどのデジタル技術を活用し、知財業務の高度化・効率化を推進する必要がある

4. **経営戦略との一体化**: 知財戦略を経営戦略・事業戦略と一体化させ、企業価値向上に直結させる視点が重要
5. **エコシステム構築の必要性**: 産学官連携による知財人財育成のエコシステム構築が日本の国際競争力強化に不可欠

7. 質疑応答で予想される論点

講演後の質疑応答では、以下のような論点が取り上げられる可能性があります:

- ・ 中小企業やスタートアップにおける知財人財育成の具体的方法
- ・ AIの発展が知財人財の役割や必要スキルに与える影響
- ・ グローバル人財としての知財専門家の育成方法
- ・ 知財部門と他部門（R&D、事業部、経営企画等）との連携強化策
- ・ 知財・無形資産ガバナンス協会の今後の具体的な取り組み

8. 結論

川名弘志氏の講演「未来を拓く知財人財とは？ 一次世代を育てる戦略と視点」は、自身のKDDIでの豊富な実務経験と知財・無形資産ガバナンス協会副理事長としての視点を融合させ、日本企業が直面する知財人財育成の課題と解決策を提示するものになると予想されます。

特に、デジタル技術の活用、多様性の推進、経営戦略との一体化、産学官連携の強化などが重要なテーマとして取り上げられるでしょう。この講演は、知財部門のリーダーだけでなく、経営層や人事部門、R&D部門など、幅広い聴衆にとって示唆に富む内容になると考えられます。

参考資料

1. LexisNexis PatentSight+ Summit 2025公式ページ (<https://www.lexisnexisip.jp/patentsight-summit/>)
2. 内閣府知的財産戦略推進事務局「高度知財人材の戦略的な育成・活用を巡る課題」(2024年4月)
3. 知財・無形資産ガバナンス推進協会 (IPIAGPA) 公式ウェブサイト (<https://ipiagpa.net/>)
4. 知的財産戦略会議2017 - 企業とアカデミアの協働によるイノベーションの推進 (<https://ipaex.com/ipsc2017/speaker/>)
5. 文部科学省「博士人材活躍プラン」(2024年3月26日)